

治水の沿革

天竜川は、鹿島橋から下流では、昔から網状に流れ、暴れ天竜として沿川住民に恐れられていました。

明治時代に入ってから、天竜川の治水事業は、はじめは金原明善や谷高濤一といった先駆的人物による民間の治水事業が行われていました。内政が安定するにつれて、河川の管理は国や県により行われることになり、明治17年(1884年)から直轄事業である第一次河川改修が始められ、JR橋から上流を中心に護岸工や水制工

を設けるなどして、流路の改修を行いました[明治33年(1900年)竣工]。

この工事後の明治44年(1911年)に水害が発生し、第一次改修では水害への対応が不十分であることが明らかとなったため、大正12年(1923年)から第二次改修の事業が着手され、昭和2年(1927年)に着工されました。下流地区も東西両派川の締切や本川拡幅等が進み、現在の流れに変わりました。

—— 天竜川の災害と治水の歴史 ——

明治6年(1873年)	江戸末期から明治初期にかけて天竜川各地で水害が頻発する。金原明善、天竜川下流の支川締切の事業を計画する。
明治7年(1874年)	金原明善、天竜川通堤防会社を起す。
明治9年(1876年)	金原明善、改修工事にかかる。
明治14年(1881年)	天竜川の改修は国あるいは県の直営となる。
明治18年(1885年)	第一次改修工事が着工。
明治33年(1900年)	第一次改修工事竣工。
明治44年(1911年)	天竜川大洪水。兩岸数ヶ所で破堤。数千町歩(約5,000万m ²)が浸水。
大正12年(1923年)	内務省による第二次改修工事を決定。
昭和 2年(1927年)	第二次改修工事に着手。天竜川改修事務所が開設。
昭和10年(1935年)	東派川締切工事に着手。
昭和13年(1938年)	上島堤防(現浜北区上島地先)決壊。
昭和19年(1944年)	東派川締切工事竣工。東南海地震。
昭和20年(1945年)	天竜川(西派川)堤防決壊。
昭和23年(1948年)	建設省(現・国土交通省)設置。
昭和25年(1950年)	西派川締切工事に着手。
昭和26年(1951年)	西派川締切工事竣工。
昭和43年(1968年)	佐久間町、天竜市の家屋被害甚大。
昭和58年(1983年)	天竜川戦後最大出水。

昭和20年10月洪水の概要